

女子学生の衣生活に関する一考察 —被服製作について—
大妻女大短大 ○都築昌子 金谷喜子 大堀ゆり

目的 現在の衣生活は、豊富な既製衣料に囲まれており、自分で製作した物を着用するということは皆無に等しい。このような環境における女子学生の被服構成に対する関心・意欲・知識・技術の現状を探り、今後の被服構成指導のための一助としたい。

方法 調査は本学短期大学部家政科家政専攻の学生を対象に、高校の家庭科教科書に見られる用語・用具・基礎技術、及び被服製作に関する意識についてのアンケート調査を行った。

結果 被服製作の基本的事柄については「知っている」と答えてるが、やや訓練を要する技術に関してはほとんどの学生が「できない」と答えるなど手仕事の低下がみられ、被服製作に関する意識調査の「直すことは嫌い」「手縫いは面倒」等否定的な項目群の結果に表れている。また「作ることが好き」「作るとはやりがいがある」等の意欲的な意識項目群では「そう思う」は70～90%と多いが、製作環境についての項目群では「糸と針を常に持っている」「家族の手仕事を見る機会がある」等では「ある」と答えた者は少なく、意欲はあるが実際には行われていない。これらの意欲と実践にみられる意識の差は進んで針を持つ習慣が薄れていることもその一因であると考えられる。